

株主通信

第137期第1四半期報告

平成16年4月1日～平成16年6月30日

The "K"LINE
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way

1st Quarter Business Report

K "K"LINE
川崎汽船株式会社 R

証券コード：9107

営業の概況



株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、2期目に入りました四半期の株主通信ですが、ここに第137期第1四半期(平成16年4月1日～6月30

日)の決算をご報告申し上げます。

後記のとおり、本四半期、当社グループの各事業部門の業績は非常に好調に推移し、前年同期の2倍を超える利益をあげることができました。また当第137期通期の業績は、当期開始した新5ヵ年経営計画「K」LINE Vision 2008の最終年度(第141期)の目標利益を上回るものと予想しています。

これもひとえに株主各位のご支援の賜物と存じ、先にお知らせしました中間5円年間10円の配当を、中間7.5円年間15円と50%増額いたす予定です。

好環境の中、将来への備えも着実にいきグループの役員、従業員全員が心を引き締め、社業に努力してまいりますので、一層のご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

平成16年8月

取締役社長

崎 長 保 英

《当期の概況》

【一般概況】

当第1四半期(平成16年4月1日から平成16年6月30日まで)の経営環境を振り返りますと、米国経済は、設備投資と雇用面で力強さを増し好調に推移しました。欧州経済は、個人消費及び輸出の増加に支えられ、全体として緩やかな回復をたどりました。アジア経済は、中国を中心に輸出と設備投資が好調に推移し景気は拡大しました。一方、わが国経済は、消費マインドが改善し個人消費は堅調に推移し、また、米国・中国経済に牽引された輸出と設備投資も好調に推移し景気は拡大しました。

このような状況下、当社グループは新経営計画Vision 2008の方針に基づき、積極的な営業を展開しつつ、コスト削減に引き続き努力しました。当第1四半期の連結売上高は前年同期より245億38百万円増加して1,990億10百万円、営業利益は144億59百万円増加の265億83百万円、経常利益は162億66百万円増加の277億86百万円となりました。当第1四半期の当期純利益は、前年同期に対し、113億32百万円増加の172億8百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績概況は次のとおりです。

【海運業】

◎コンテナ船部門

コンテナ船部門は、北米航路では米国個人消費の伸びが好調を維持、低金利政策による住宅着工の伸びもあり、荷動きは堅調に推移しました。欧州航路も5月のEU拡大が新たな欧州経済活動の牽引となり荷動きは大きな伸びを見せました。当社は荷動きの伸長著しい中国を中心としたサービスの強化を図り、アジア/北米航路での増便、大型船の投入、アジア/エーゲ海航路の開設、南北アメリカ東岸新サービス開始など顧客ニーズに対応した結果、積高は前年同期を大きく上回りました。用船料、燃料油価格の高騰、円高基調等の悪化要因がありましたが、運賃修復と積高の増大により、売上高、利益ともに前年同期を大幅に上回り、所期の目標を大きく上回ることができました。

◎不定期専用船部門

撒積船については、昨年末より歴史的な高値で推移していた市況が修正局面を迎えましたが、高市況をほぼ全面的に享受し、手持ち船腹の効率配船と高収益貨物の成約に努めた結果、前年同期を大幅に上回る利益をあげることができました。

自動車船については、米国や欧州、豪州での自動車販売が引き続き堅調に推移し、特に日本車・韓国車の販売は好調を持続しました。好調な日本車・韓国車販売を受け、極東出しの輸送台数は前年同期比で大幅な伸びを記録、大西洋航路を始めとする三国間航路も好調に推移した結果、輸送台数は大幅な増加となりました。世界的な船腹不足による用船料の高騰や燃料油価格の高止まりの影響もありましたが、効率的な配船に努める

ことで引き続き安定的な利益をあげることができました。

以上の結果、当部門は、売上高、利益ともに前年同期を大幅に上回り、所期の目標を大きく上回ることができました。

◎エネルギー資源輸送部門

液化天然ガス運搬船については、当社の関与する各プロジェクト船合計24隻が順調に稼働し、引き続き安定的な営業収益を確保することができました。

電力会社向け石炭輸送については、豪州積出港の滞船緩和による支配船稼働率の上昇、また新規契約の締結等により、前年同期に比べ収支は大きく改善しました。

油槽船についても、米国、中国を中心としたアジア諸国の旺盛な石油需要により運賃市況は堅調に推移しました。30万重量トン型新造ダブルハルVLCC1隻が竣工しました。

当部門全体でも、売上高、利益ともに前年同期を上回り、所期の目標を上回ることができました。

◎内航・フェリー部門

内航・フェリー部門は、燃料油価格の高値基調のなか、効率配船に努め引き続き安定した利益を確保することができました。

この結果、海運業部門全体では、売上高は1,725億51百万円、営業利益は239億42百万円となりました。

【運輸に付帯するサービス業】

貨物輸送が海上・航空ともに比較的堅調に推移したこと、及びその結果港湾関連事業会社の取扱貨物が増加したことが相まって、セグメント全体では、売上高は234億4百万円、営業利益は22億62百万円と前年同期に対して増収増益となりました。

【その他の事業】

道路貨物運送業ほか、上記以外の事業においては、売上高は全体として30億54百万円、営業利益は3億38百万円となりました。

《業績予想》

(単位：億円)

| | | 2004年度 (平成16年度) 上期見込 | 2004年度 (平成16年度) 通期見込 | 2003年度 (平成15年度) 通期実績 | 2008年度 (平成20年度) 目標 |
|---------|----|----------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 売 上 高 | 連結 | 3,970 | 7,900 | 7,247 | 8,700 |
| | 単体 | 3,200 | 6,200 | 5,850 | 6,800 |
| 営 業 損 益 | 連結 | 560 | 980 | 705 | 880 |
| | 単体 | 450 | 750 | 551 | 670 |
| 経 常 損 益 | 連結 | 560 | 970 | 626 | 870 |
| | 単体 | 450 | 750 | 497 | 680 |
| 当 期 損 益 | 連結 | 330 | 570 | 332 | 550 |
| | 単体 | 280 | 460 | 245 | 420 |
| 配 当 | - | 7.5円 | 15円 | 10円 | - |

第2四半期は、コンテナ船が夏場のピークシーズンを迎え、荷動きは引き続き好調に推移しており、またアジア航路等での運賃修復も見込まれます。不定期専用船部門においても、自動車船の荷況は順調に推移し、不定期船は市況に一時調整局面が見られたものの、実需の衰えが見られないことから、再び反騰に転じており

ます。タンカー運賃も依然、高市況を享受する見込みであることより、上半期は、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益ともに期首公表予想を大幅に上方修正しました。

下期については、海運業を取り巻く事業環境は引き続き好調に推移すると見込まれる反面、燃料油価格の高騰、用船料の高止まり、金利の上昇等のマイナス材料もあり、これらの要因を織り込んだ結果、下期の見込みは期首公表の数値を若干上回るものと予想し、修正予想に織り込みました。

なお、上期の円/ドル為替レートは1ドル=108円、燃料油価格はトン当たり180ドルを想定しております。下期の円/ドル為替レートは1ドル=110円、燃料油価格はトン当たり190ドルを想定しています。

また、当期の配当金につきましては、好転した業績見通しを勘案し、中間配当金は1株当たり2.5円増配し7.5円とさせていただき、期末も同じく2.5円増配の7.5円とし、年間配当金としては5円増配の15円とさせていただきます予定です。

新経営計画 Vision 2008 では、1株当たり10円の安定配当を確実にすることを掲げましたが、予定を上回る好業績を達成し得る際には、さらに、単体当期純利益の2割程度を目処に、株主の皆様への利益の還元に努めます。

環境技術への取り組み

当社グループは、平成 14 年に環境に関わる国際規格 ISO14001 の認証を取得し、環境マネジメントシステムの運営も順調に軌道に乗っています。

以来環境に関わる適正な情報開示として、年刊の環境レポートを刊行してまいりましたが、昨今の動きとして、環境保全、企業統治、法令遵守、危機管理等を総合した企業の社会的責任の取り組みを重要視する潮流にあります。そこで当社報告書も平成 17 年度は『環境レポート』から『社会・環境レポート』とし、内容の充実を図りました。

このたびは、この「社会・環境レポート」から特に環境に関する当社グループの取り組みの一部分についてご紹介します。海運会社がどのような環境問題に直面し、いかにしてそれに対処しているのかについてご理解いただければ幸甚に存じます。

【タンカーのダブルハル化】

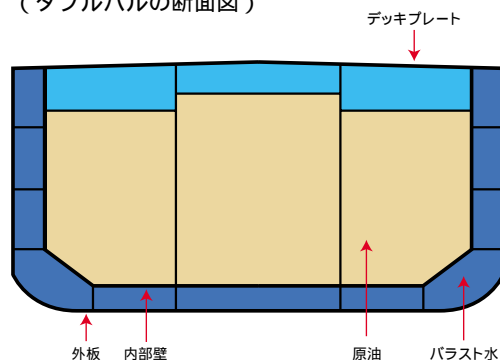
衝突や座礁による海難事故の際、損傷した船体から貨物油や燃料油が海に流出する事があり、これらが海洋汚染により甚大なる影響を及ぼすことから、国際条約 MARPOL 73/78 附属書 I では、平成 8 年以降に竣工するタンカーは、すべてダブルハル（船体の壁が二重）構造とすることが定められました。

ダブルハル化することで、ひとたび海難によって外板が損傷したとしても、貨物油貯蔵部は内部壁に守られ船外には流出しないように設計されています。

当社ではダブルハル構造の新造タンカーを積極的に建造し、長期用船についても、順次ダブルハル船に切り替えて、平成 16 年 3 月末時点では全運航タンカーのダブルハル化率は既に約 91% に達しています。

その他、今後の課題として取り組んでいる事項として、各燃料タンクについても、外板から離れた場所に設置するような検討・設計が始まっています。

（ダブルハルの断面図）



【電子制御エンジンの採用】

船舶のエンジンは、燃料が燃焼することにより地球温暖化の原因となるCO₂や酸性雨の原因となるNO_x、SO_xを排出します。船舶からの大気汚染防止に関する国際条約MARPOL73/78 附属書Ⅵは今年5月に批准され、平成12年1月1日に遡及して発効することが決まりました。当社では、NO_xの発生を抑える対策型エンジンの採用にいち早く取り組み、すでに51隻が就航するまでに至っています。また、新たな技術の導入も進め、平成17年8月から順次竣工する5,000台型自動車船3隻の主機関には、当社初となる電子制御によるエンジンを搭載することが決まっています。続いて、平成18年から平成19年にかけて建造される4隻の8,000TEU型新造コンテナ船にも電子制御エンジンが採用されることが決定しています。

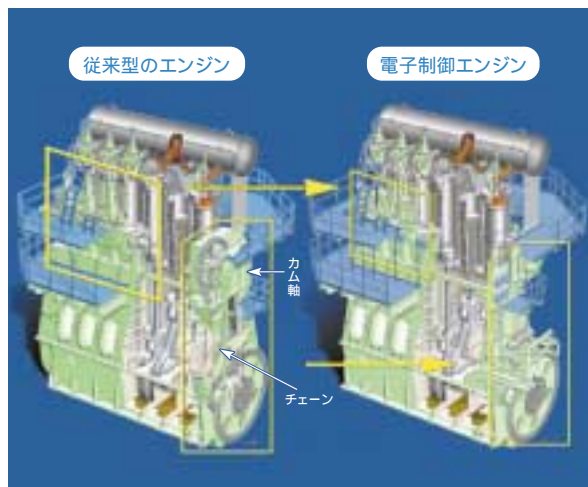
電子制御エンジンの特徴は次のとおりです。

- 1) 従来は機械的(カム機構)に制御していた機関の燃料噴射パターン(タイミング、圧力、噴射量)及び排気弁の開閉タイミングを、クランクシャフト直結油圧装置にて電子的に制御する。(右図参照)
- 2) 燃料ポンプや排気弁を駆動するのに装備されていたカム軸が不要となるために構造がシンプルになる。
- 3) 燃料タイミングを制御することにより低負荷での最高燃焼圧力を増加させ、燃費向上を図ることができる。
- 4) 油圧駆動により安定した高圧の燃料を噴射することが可能となるため、燃焼性の改善が図られれば塵生成の低減を図れる。
- 5) 燃費向上を目的とする運転モードや大気汚染の原因

となるNO_xの発生を抑制する運転モードの設定が可能となり、環境に適切な運転モードを選択することができる。

つまり、各運転条件に対しクランクシャフト位置、回転数を検知し、電子制御によって燃料噴射パターン及び排気弁開閉タイミングを最適化できるので、燃費の低減、操船性の向上、排気ガス性状の改善を図ることが可能となります。

電子制御エンジンでは、常に一定の燃料噴射圧が得られるので、今までは困難とされた極低回転域でも安定した運転ができるようになりました。



私たちは、これからの環境に配慮した
多彩な物流を新拠点でめざします。

 **K LINE KINKAI**
川崎近海汽船株式会社
KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.
東京都千代田区霞が関1丁目4番2号
<http://www.kawakin.co.jp>

新社屋

新たな気持ちで、
物流のベストパートナーに
なりたいと考えています。



安全管理

安全運航の品質向上に努めます。



情報システム

経営と情報技術を連携し、
高効率化を進めるとともに、
顧客優先のシステム作りを
めざします。

近海部門

アジアと物流で結ぶ。
近海定期船
近海不定期船



フェリー部門

就航30余年。地球を130周分に
相当する距離の航行実績。

内航部門

より環境に配慮した物流へ。
内航定期船
内航不定期船



連結財務諸表

連結貸借対照表

| 科 目 | 当 第 1 四 半 期 末 平成16年6月30日現在 | 前連結会計年度末 平成16年3月31日現在 | 比較増減 |
|-------------------|-------------------------------|--------------------------|---------------|
| (資産の部) | | | |
| 流動資産 | | | |
| 現金及び預金 | 20,572 | 23,370 | 2,797 |
| 受取手形及び営業未収金 | 82,769 | 75,986 | 6,783 |
| 短期貸付金 | 3,338 | 11,830 | 8,491 |
| 有価証券 | 34 | 54 | 19 |
| たな卸資産 | 10,419 | 9,303 | 1,115 |
| 繰延及び前払費用 | 22,120 | 21,507 | 612 |
| その他流動資産 | 15,749 | 15,638 | 111 |
| 貸倒引当金 | 1,039 | 1,046 | 7 |
| 流動資産合計 | 153,964 | 156,643 | 2,679 |
| 固定資産 | | | |
| 有形固定資産 | | | |
| 船舶 | 178,576 | 171,699 | 6,877 |
| 建物及び構築物 | 28,938 | 29,131 | 193 |
| 機械装置及び運搬具 | 7,272 | 6,580 | 692 |
| 土地 | 35,435 | 35,446 | 10 |
| 建設仮勘定 | 36,630 | 34,322 | 2,307 |
| その他有形固定資産 | 3,576 | 3,793 | 216 |
| 有形固定資産合計 | 290,429 | 280,973 | 9,456 |
| 無形固定資産 | | | |
| 連結調整勘定 | 71 | 77 | 6 |
| その他無形固定資産 | 6,497 | 5,837 | 660 |
| 無形固定資産合計 | 6,568 | 5,914 | 653 |
| 投資その他の資産 | | | |
| 投資有価証券 | 85,847 | 80,201 | 5,645 |
| 長期貸付金 | 12,811 | 15,214 | 2,403 |
| 繰延税金資産 | 3,599 | 3,715 | 115 |
| 再評価に係る繰延税金資産 | 219 | 219 | - |
| その他長期資産 | 18,633 | 16,612 | 2,021 |
| 貸倒引当金 | 452 | 423 | 29 |
| 投資その他の資産合計 | 120,658 | 115,539 | 5,118 |
| 固定資産合計 | 417,656 | 402,427 | 15,229 |
| 繰延資産 | 53 | 63 | 10 |
| 資産合計 | 571,674 | 559,135 | 12,539 |

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 第 1 四 半 期 末 平成16年6月30日現在 | 前連結会計年度末 平成16年3月31日現在 | 比較増減 |
|------------------------|-------------------------------|--------------------------|---------------|
| (負債の部) | | | |
| 流動負債 | | | |
| 支払手形及び営業未払金 | 61,169 | 61,017 | 152 |
| 社債短期償還金 | 5,000 | 5,000 | - |
| 短期借入金 | 57,755 | 66,768 | 9,013 |
| 未払法人税等 | 10,149 | 16,656 | 6,507 |
| 賞与引当金 | 1,918 | 2,220 | 301 |
| リース債務 | 1,442 | 1,456 | 13 |
| その他流動負債 | 29,887 | 24,966 | 4,921 |
| 流動負債合計 | 167,323 | 178,086 | 10,762 |
| 固定負債 | | | |
| 社債 | 46,000 | 46,000 | - |
| 長期借入金 | 157,846 | 151,483 | 6,363 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 2,061 | 2,061 | - |
| 退職給付引当金 | 12,623 | 13,063 | 439 |
| 役員退職慰労引当金 | 2,014 | 2,135 | 120 |
| 特別修繕引当金 | 9,622 | 9,680 | 57 |
| 長期リース債務 | 10,589 | 11,102 | 512 |
| その他固定負債 | 18,605 | 16,560 | 2,045 |
| 固定負債合計 | 259,364 | 252,085 | 7,278 |
| 負債合計 | 426,687 | 430,172 | 3,484 |
| (少数株主持分) | 8,202 | 7,956 | 245 |
| (資本の部) | | | |
| 資本金 | 29,689 | 29,689 | - |
| 資本剰余金 | 14,534 | 14,535 | 0 |
| 利益剰余金 | 80,986 | 66,964 | 14,022 |
| 土地再評価差額金 | 5,093 | 5,093 | - |
| その他有価証券評価差額金 | 13,132 | 11,801 | 1,331 |
| 為替換算調整勘定 | 5,884 | 6,310 | 425 |
| 自己株式 | 768 | 767 | 0 |
| 資本合計 | 136,784 | 121,006 | 15,778 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 571,674 | 559,135 | 12,539 |

連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 第 1 四 半 期 自平成16年4月1日 至平成16年6月30日 | 前 年 同 期 自平成15年4月1日 至平成15年6月30日 | 比較増減 |
|--------------|--|--------------------------------------|--------|
| 売上高 | 199,010 | 174,471 | 24,538 |
| 売上原価 | 159,074 | 149,415 | 9,658 |
| 販売費及び一般管理費 | 13,352 | 12,932 | 420 |
| 営業利益 | 26,583 | 12,124 | 14,459 |
| 営業外収益 | | | |
| 受取利息 | 216 | 163 | 53 |
| 受取配当金 | 515 | 425 | 90 |
| 持分法による投資利益 | 130 | 116 | 13 |
| 為替差益 | 1,393 | - | 1,393 |
| その他営業外収益 | 182 | 299 | 116 |
| 営業外収益合計 | 2,438 | 1,004 | 1,434 |
| 営業外費用 | | | |
| 支払利息 | 1,204 | 1,536 | 331 |
| 為替差損 | - | 51 | 51 |
| その他営業外費用 | 31 | 21 | 10 |
| 営業外費用合計 | 1,236 | 1,609 | 373 |
| 経常利益 | 27,786 | 11,519 | 16,266 |
| 特別利益 | 402 | 435 | 33 |
| 特別損失 | 581 | 1,460 | 879 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 27,606 | 10,494 | 17,112 |
| 法人税等 | 9,974 | 4,444 | 5,530 |
| 少数株主利益 | 423 | 174 | 249 |
| 四半期純利益 | 17,208 | 5,876 | 11,332 |

個別財務諸表

個別貸借対照表

| 科 目 | 当第1四半期末 平成16年6月30日現在 | 前 期 末 平成16年3月31日現在 | 比較増減 |
|-----------------|-------------------------|-----------------------|-------|
| (資産の部) | | | |
| 流動資産 | | | |
| 現金・預金 | 4,733 | 6,864 | 2,131 |
| 海運業未収金 | 59,682 | 53,941 | 5,740 |
| 短期貸付金 | 4,618 | 10,514 | 5,896 |
| 立替金 | 6,233 | 5,856 | 376 |
| 貯蔵品 | 8,435 | 7,553 | 882 |
| 繰延及び前払費用 | 21,134 | 20,103 | 1,030 |
| 代理店債権 | 2,882 | 2,058 | 823 |
| 繰延税金資産 | 2,036 | 2,550 | 514 |
| その他流動資産 | 2,360 | 2,205 | 155 |
| 貸倒引当金 | 418 | 872 | 454 |
| 流動資産合計 | 111,698 | 110,776 | 921 |
| 固定資産 | | | |
| 有形固定資産 | | | |
| 船舶 | 46,181 | 47,299 | 1,118 |
| 建物 | 3,943 | 3,970 | 26 |
| 構築物 | 216 | 193 | 23 |
| 器具・備品 | 514 | 501 | 13 |
| 土地 | 23,359 | 23,359 | - |
| 建設仮勘定 | 712 | 618 | 94 |
| その他有形固定資産 | 1,046 | 1,083 | 36 |
| 有形固定資産合計 | 75,974 | 77,025 | 1,051 |
| 無形固定資産 | | | |
| ソフトウェア | 2,253 | 2,306 | 52 |
| ソフトウェア仮勘定 | 837 | 256 | 581 |
| 施設利用権等 | 17 | 17 | 0 |
| 無形固定資産合計 | 3,108 | 2,579 | 528 |
| 投資その他の資産 | | | |
| 投資有価証券 | 62,358 | 60,059 | 2,299 |
| 関係会社株式 | 35,476 | 32,251 | 3,225 |
| 長期貸付金 | 41,819 | 38,720 | 3,099 |
| 長期前払費用 | 1,412 | 1,217 | 194 |
| 保証金・敷金 | 3,201 | 3,203 | 1 |
| その他長期資産 | 5,349 | 4,295 | 1,054 |
| 貸倒引当金 | 707 | 228 | 479 |
| 投資その他の資産合計 | 148,911 | 139,519 | 9,392 |
| 固定資産合計 | 227,994 | 219,124 | 8,869 |
| 繰延資産 | | | |
| 社債発行費 | 53 | 63 | 10 |
| 繰延資産合計 | 53 | 63 | 10 |
| 資産合計 | 339,745 | 329,965 | 9,780 |

(単位：百万円)

| 科 目 | 当第1四半期末 平成16年6月30日現在 | 前 期 末 平成16年3月31日現在 | 比較増減 |
|----------------|-------------------------|-----------------------|--------|
| (負債の部) | | | |
| 流動負債 | | | |
| 海運業未払金 | 52,597 | 47,373 | 5,223 |
| 社債短期償還金 | 5,000 | 5,000 | - |
| 短期借入金 | 25,529 | 27,390 | 1,861 |
| コマmercial・ペーパー | 3,000 | 2,000 | 1,000 |
| 未払法人税等 | 8,495 | 14,331 | 5,835 |
| 前受金 | 14,273 | 11,631 | 2,642 |
| 預り金 | 2,816 | 3,056 | 239 |
| 代理店債務 | 4,208 | 5,132 | 923 |
| 賞与引当金 | 250 | 1,019 | 769 |
| その他流動負債 | 4,058 | 1,854 | 2,203 |
| 流動負債合計 | 120,231 | 118,790 | 1,440 |
| 固定負債 | | | |
| 社債 | 46,000 | 46,000 | - |
| 長期借入金 | 47,713 | 52,069 | 4,355 |
| 退職給付引当金 | 1,835 | 2,092 | 256 |
| 役員退職慰労引当金 | 1,317 | 1,292 | 25 |
| 特別修繕引当金 | 1,012 | 1,504 | 491 |
| 繰延税金負債 | 6,993 | 6,050 | 942 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 1,817 | 1,817 | - |
| その他固定負債 | 3,811 | 3,508 | 303 |
| 固定負債合計 | 110,502 | 114,335 | 3,833 |
| 負債合計 | 230,733 | 233,126 | 2,392 |
| (資本の部) | | | |
| 資本金 | | | |
| 資本金 | 29,689 | 29,689 | - |
| 資本剰余金 | | | |
| 資本準備金 | 14,534 | 14,534 | - |
| その他資本剰余金 | - | 0 | 0 |
| 自己株式処分差益 | - | 0 | 0 |
| 資本剰余金合計 | 14,534 | 14,535 | 0 |
| 利益剰余金 | | | |
| 利益準備金 | 2,540 | 2,540 | - |
| 任意積立金 | - | - | - |
| 特別償却準備金 | 2,162 | 1,969 | 193 |
| 圧縮記帳積立金 | 2,343 | 2,452 | 109 |
| 別途積立金 | 29,052 | 11,052 | 18,000 |
| 四半期末処分利益 | 14,373 | 21,717 | 7,344 |
| 利益剰余金合計 | 50,470 | 39,731 | 10,739 |
| 土地再評価差額金 | 3,016 | 3,016 | - |
| その他有価証券評価差額金 | 11,954 | 10,520 | 1,434 |
| 自己株式 | 653 | 653 | 0 |
| 資本合計 | 109,012 | 96,839 | 12,173 |
| 負債及び資本合計 | 339,745 | 329,965 | 9,780 |

比較損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 第 1 四 半 期 自平成16年4月1日 至平成16年6月30日 | 前 第 1 四 半 期 自平成15年4月1日 至平成15年6月30日 | 比較増減 |
|-----------|--|--|--------|
| 営業収益 | | | |
| 海運業収益 | | | |
| 運賃 | 135,873 | 119,749 | 16,123 |
| 貸船料 | 20,775 | 18,115 | 2,660 |
| その他海運業収益 | 4,146 | 3,222 | 923 |
| 海運業収益計 | 160,795 | 141,087 | 19,707 |
| その他事業収益 | 225 | 215 | 9 |
| 営業収益計 | 161,020 | 141,303 | 19,717 |
| 営業費用 | | | |
| 海運業費用 | | | |
| 運航費 | 69,204 | 67,854 | 1,350 |
| 船費 | 2,312 | 2,282 | 29 |
| 借船料 | 53,257 | 45,904 | 7,352 |
| その他海運業費用 | 11,495 | 12,175 | 679 |
| 海運業費用計 | 136,270 | 128,217 | 8,052 |
| その他事業費用 | 113 | 180 | 67 |
| 一般管理費 | 3,727 | 3,000 | 727 |
| 営業費用計 | 140,111 | 131,398 | 8,712 |
| 営業利益 | 20,909 | 9,904 | 11,004 |
| 営業外収益 | | | |
| 受取利息・配当金 | 759 | 623 | 136 |
| 為替差益 | 1,292 | 99 | 1,192 |
| その他営業外収益 | 46 | 48 | 1 |
| 営業外収益計 | 2,098 | 771 | 1,327 |
| 営業外費用 | | | |
| 支払利息 | 572 | 764 | 191 |
| その他営業外費用 | 29 | 15 | 13 |
| 営業外費用計 | 602 | 780 | 177 |
| 経常利益 | 22,405 | 9,895 | 12,510 |
| 特別利益 | - | 2 | 2 |
| 特別損失 | 28 | 946 | 917 |
| 税引前四半期純利益 | 22,377 | 8,952 | 13,424 |
| 法人税等 | 8,537 | 3,449 | 5,087 |
| 四半期純利益 | 13,840 | 5,503 | 8,337 |
| 前期繰越利益 | 535 | 247 | 287 |
| 自己株式処分差損 | 2 | - | 2 |
| 四半期末処分利益 | 14,373 | 5,751 | 8,622 |

"K" LINE TRAVEL, LTD.

ケイライントラベルは、出張や個人旅行、各種ツアーをお取り扱いするプロフェッショナル企業として高品質のサービスを提供しています。



Business Trip Consulting

ビジネストラベル
出張関連業務をトータルにサポート

System Solution

ビジネストラベル/
システムソリューション

Group Tour etc..

- キルトツアー
- 中国ビジネスツアー
- 広告業界関連ツアー
- ホームステイ



私どもは、企業のご出張手配はもちろんのこと、特色ある各種ツアーを企画しております。また、国内出張の手配システムや出張旅費精算システムのご提案など、最新のテクノロジーを活用したビジネストラベル/システムソリューションをご提案しています。

ケイライントラベル株式会社

本社・東京旅客部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル1F

阪神営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通八番 神港ビル1F

大阪駐在事務所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-2-1 大同生命本社ビルB1F

hpアドレス <http://www.klineair.co.jp/travel> <http://www.quilters-shop.com>

TEL:03-3506-3466

TEL:078-391-1701

TEL:06-6443-8777



“K” Line in Japan

美しい日本の“K” Line Japan

日本のお客様のニーズを徹底追及—
それが“K” Line (Japan) Ltd.のモットーです。

“K”Line(Japan)Ltd.は、お客様のニーズに呼応したきめ細かいサービスと安全輸送の提供はもちろん、地域密着型の物流コンサルタントとして、総合物流における新たなビジネスソリューションの提案に積極的に取り組んでおります。

“K”Line(Japan)Ltd.は、既存のサービスを活用するだけでなく、“K”Line関連グループとの連携を推進、さらにグループ外企業との協調も視野に入れたネットワーク作りにも前向きに取り組んでおり、総合物流事業を積極的に展開しております。

“K”Line(Japan)Ltd.の活躍に、是非ご期待下さい。

 **“K” LINE**
“K” Line (Japan) Ltd.

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目2-9 日比谷セントラルビルディング
Phone (03)3595-5213 / Fax (03)3595-5259 / <http://www.klj.kline.com>
名古屋支店 Phone (052)952-7711 / 関西支店 Phone (078)858-6501

コンテナ船航路増設

アジアから地中海向けの荷動きは昨年度から力強い伸びを見せており、今年前半に至るまで前年度比 20% を超える成長率を記録、脚光を浴びています。当社はすでにアジアから地中海へは週 3 便の厚いサービスを展開していますが、新たに 4 月初旬より、トルコ、ギリシャ等への東地中海直行サービスを開始しました。また 5 月からは EU に加入を果たし今後物流の増加が期待できるハンガリー、スロバキア諸国を背後に控え、玄関港としての役割が益々重要となるコパー、トリエステ、ベニス等へ直接寄港を行うアドリア海サービスを新設しました。これらのきめ細かい航路網の展開により、高品質のサービスを提供するとともに、将来の需要増に対応する体制を整えています。

一方、近年成長市場の一つとして注目されるブラジルは、長い経済不振から抜け出し、平成 15 年には貿易収支黒字化を達成、米国を含め各国との FTA 等締結、またメルコスール（南米南部共同市場）推進により輸出拡大に努めています。このブラジルを核とした北米東岸 / 南米東岸サービスを 5 月より新たに開設しました。当社がすでに展開している太平洋及び大西洋航路での重要顧客である米国大手小売業者を中心に



DONAU BRIDGE

近年つとに要請が高まって来たこともあり、こうした顧客ニーズに対応し、時機を捉えてネットワーク拡大を図ったものです。

“CORONA KINGDOM” 竣工

88,000 トン型石炭船“CORONA KINGDOM”（コロナ・キングダム）が、本年 4 月 5 日今治造船株式会社丸亀事業所にて竣工しました。当社が独自に開発したコロナシリーズは、火力発電所向け石炭輸送に最適な幅広浅喫水の船型を採用した画期的な石炭専用船で、“CORONA KINGDOM”の就航により、同シリーズ船隊は 9 隻体制となりました。同船は、東京電力株式会社向け専航船として、長期にわたり主に茨城県常陸那珂、福島県広野及び相馬の発電所向け石炭輸送に従事します。さらに当該船型による電力向け石炭の需要拡大に対応するため、平成 19 年度までに 2 隻の竣工が予定されており、コロナシリーズは 11 隻体制に拡充され、国内最大かつ最新鋭の石炭輸送船隊となります。これにより、当社の電力向け石炭輸送船隊は年間 1,300 万トン輸送体制が整い、石炭の安全かつ安定的な輸送に貢献してまいります。



CORONA KINGDOM

新造 VLCC 2 隻の定期用船契約締結

当社は、本年 1 月に竣工した 30 万重量トン型ダブルハル VLCC（ユニバーサル造船船津事業所にて建造）を昭和シェル石油株式会社と、本年 4 月に竣工した同型船（同）を新日本石油株式会社とそれぞれ定期用船契約を締結しました。

昭和シェル石油株式会社とはこれで 3 隻目の契約となり、新日本石油株式会社とは新造船では初めての定期用船契約となります。両社とも日本を代表する石油元売会社であり、両社との新規契約締結は当社の安全運航を基本とした、高い品質の輸送サービスが評価されたものです。この結果当社の VLCC4 隻すべてが定期用船契約に投入されることになります。なお、当社はさらに 2 隻の 30 万重量トン型ダブルハル VLCC（川崎造船坂出工場にて建造）を発注しており、今後とも業容の拡大に努めます。



ISUZUGAWA



FUJIKAWA



2004 年カレンダー



社会・環境レポート

株主の皆様へのアンケート

1. 当社のどのような点にご関心をお持ちでしょうか？
a. 業績 b. 財務状況 c. 配当 d. 経営計画
e. 将来性 f. 株価 g. 経営者 h. 事業内容
i. グループ会社 j. その他（ ）
2. 今回の株主通信では、どの記事にご興味がありましたか？
a. 社長挨拶 b. 当期の概況 c. 環境技術
d. トピックス「コンテナ船航路増設」
e. トピックス「“CORONA KINGDOM”竣工」
f. トピックス「VLCC定期用船契約締結」
g. 財務情報
3. お手持ちの当社株式を今後どのようにされたいとお考えですか？
a. 長期にわたり保有する b. 適宜売却する
c. 買増しする
4. 当社カレンダーのご送付を希望されますか？
a. 希望する b. 希望しない
5. 社会・環境レポートのご送付を希望されますか？
a. 希望する b. 希望しない

以上



川崎汽船株式会社 R

〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号
(日比谷セントラルビル)

TEL : 03-3595-5061

URL : http://www.kline.co.jp

郵便はがき

切手を貼って
お出し下さい。

1 0 5 8 4 2 1

東京都港区西新橋1 - 2 - 9
日比谷セントラルビル

川崎汽船株式会社
総務・法務グループ 行

| | | |
|------|--------|-----|
| フリガナ | | 性別 |
| お名前 | 歳 | 男・女 |
| ご住所 | 〒 都道府県 | |
| TEL | | |
| ご職業 | | |

当社株式をどの程度の期間お持ちですか。

- a. 1年以内 b. 3年以内 c. 5年以内 d. 5年以上

The "K"LINE
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way



(注) この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。



本誌は100%再生紙、大豆油インクを使用しています。
当社は未来の子供たちのために、資源の再利用と環境保全に取り組んでいます。